

(コラム) 事業に込めた思い part2 「教育」は「共育」

日頃は「子供の居場所づくり事業」にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。放課後事業課の中尾と申します。これまで事業を進める中で思った事や子供たちの変化から感じた事など、コラムを通して発信してきましたが、この4月の人事異動で、今回が私からの最後のコラムとなります。皆さまからご感想や励ましのお言葉を頂きましてありがとうございました。最後は皆さんに是非、考えていただきたい事を問題提起して締めくくりたいと思います。

当事業は、これまで「子供たちの育ちに必要環境を提供しよう」と進めてきましたが、実はもう一つ狙いが有ります。それは、当事業を通して「教育の主体者は誰？」を今一度皆さんに問わせていただく事です。勝手に私が感じている事ですが、今の教育は全てが学校に委ねられつつあるのではないかと大変危惧しております。例えば、放課後や休日に地域の公園で子供たちが悪さをしていると、かなりの確率で学校に苦情が入るそうです。もちろん今の時代、その場で子供を叱りつけると不審者呼ばわりされるリスクが有りますので、学校の先生に指導してもらうのが一番と思われるのも仕方ありません。ただ中には「学校でどういう教育をしているんだ」と言われる事も...

事業の仕組みとしては、保護者も地域の方々も、できるだけ子供たちの教育者として関わってもらう事を前提にしております。子供たちの心や人格が育まれるためには、学校の先生たちだけではなく、保護者も地域の方々も教育の主体者として連携する事が重要だからです。具体的には、学校で学んだ事を家庭や地域で実践として生かし、その学び取った成果を保護者や地域の大人に褒められたり、認められたりする事で、子供たちの人格形成につながるものと考えられます。そのことから、帰る時間などルールを約束するのは家庭。子供たちへの声かけなどは見守りサポーターとして地域の方々をお願いしています。

ところで、信号のない横断歩道で渡ろうとしている人がいると、車が停車する割合が最も高い県はどこかご存知ですか？全国平均17.1%のところ68.5%で断トツだったのが長野県です。ちなみに兵庫県は43.2%で3位。(JAFが2016年に調査)長野県では道を渡る人がよく運転手にお辞儀をするそうです。その行動が運転手のマナー向上につながっているとの事です。時々「社会のルールやマナーを教えるのは学校の役割」と耳にする事がありますが、私は子供たちがそれらの事を教わり身に付けるのは社会の役割の方が大きいと思っています。もしかすると長野県の子供たちは、横断歩道の渡り方や感謝の気持ちを伝える姿を日頃からよく目にし、その背中を見て育った子供が大人になりマナーの実践に繋がっているのかも知れませんね。

子供たちの育ちの課題として、コミュニケーション力や規範意識、自尊心の低下などが指摘されています。でもこれらの課題は決して学校教育だけで解決できるものではなく、家庭教育や地域の教育力がないと育めなかったり、互いが協力し合う事で効果を発揮したりするケースも多々あります。言わば「教育」は学校だけでなく家庭や地域も教育の主体者として子供たちを共に育む「共育」の考え方が重要ではないかと。

今後もネット社会が進み、少子化による育ちの影響も懸念される中、子供たちを育む環境づくりに対して私たち大人が油断をしていると子供たちの育ちの課題が更に膨れ上がる事が予想されます。当事業は、そんな不安を払拭するためにも、引き続き子供たちの育みの一つの取り組みとして機能してほしいと願っております。



放課後事業課 課長 中尾篤也